

平成20年度後学期 学生による授業評価アンケート調査（最終）
「アンケート結果に応じて」

所属部局	人文学部		氏名	今井敬子			
講義コード	2331087010		講義名	中国言語文化講読 I			
開講曜日	火曜日	5・6時限	専門科目				
授業回数 回	14	休講回数 回	0	補講回数 回	0	受講登録者数 人	8

成績評価に際し注意した事項

出席状況、授業での作業（中国語文の完成、読解、日記）、最終課題を総合して評価。

報告内容

偏差値CSグラフの満足度の高い項目は、カテゴリー1では反応を確かめながらの授業、知識・技術が身につく、学生に公平に接する、カテゴリー2では教材の使い方が適切、声が聞き取りやすいが挙げられ、満足度の低い項目は、カテゴリー3では板書が読みやすい、シラバスの内容が反映、カテゴリー4では進度が適切、時刻を守る、学習の雰囲気を保つ、難易度が妥当、が挙げられた。満足度が低い項目のなかで、難易度（満足率62.5）およびシラバスの内容を反映（満足率62.5）が突出して低く、他の項目はカテゴリー1および2に非常に接近した位置にある。本科目の受講生（回答者）は8名であるが、難易度に関して「易しすぎた」（評点2）が1名、「妥当」（評点9が4名、評点8が1名）、「どちらともいえない」（評点6）が1名、無回答が1名である。回答者が少人数のため、「易しすぎた」という1名の回答が数値上で大きく影響したと考えられるが、いずれにしてもこのような低い評価はかつて経験がない。受講生が複数の学年にまたがる外国語講読授業は語学力の個人差が大きいが、そのための対策を十全に行って今後の授業を進めたい。もうひとつ非常に評価の低い項目「シラバスの内容を反映」については、当初予定していた図書（原書）が入手できず、教材を変えたことに伴い授業方法も変更して、平易な文章を文脈や背景知識を手がかりにその場で読み取り理解できることを目指した。このような変更が原因したと考えられるが、この点も反省している。なお、総合満足度（Q14）は評点9が5名、評点8が1名、評点7が2名であった。

